

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 2 区分

【発行日】平成24年2月9日(2012.2.9)

【公表番号】特表2011-515850(P2011-515850A)

【公表日】平成23年5月19日(2011.5.19)

【年通号数】公開・登録公報2011-020

【出願番号】特願2011-500763(P2011-500763)

【国際特許分類】

H 0 1 L 23/26 (2006.01)

【F I】

H 0 1 L 23/26

【手続補正書】

【提出日】平成23年12月13日(2011.12.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

パッケージを気密シールする方法であって、

パッケージの壁面を画成する内側に、アルカリ金属陽イオン又はアルカリ土類金属陽イオンと非酸化性陰イオン部分とを含むゲッタ前駆体を塗工する工程と、

ゲッタ前駆体を熱分解し且つアルカリ金属陽イオン又はアルカリ土類金属陽イオンを還元するのに有効な温度までゲッタ前駆体を加熱する工程とを含む方法。

【請求項 2】

加熱前に又は加熱と同時にゲッタ前駆体を放射線に暴露することをさらに含む、請求項 1 記載の方法。

【請求項 3】

前記非酸化性陰イオン部分が有機金属基である、請求項 1 記載の方法。

【請求項 4】

前記非酸化性陰イオン部分がアジ化物である、請求項 1 記載の方法。

【請求項 5】

前記非酸化性陰イオン部分が水素化物である、請求項 1 記載の方法。

【請求項 6】

ゲッタ前駆体の溶液を塗工する工程が、大気中で皮膜を塗工することを含む、請求項 1 記載の方法。

【請求項 7】

前記溶液が水溶液である、請求項 6 記載の方法。

【請求項 8】

ゲッタ前駆体を熱分解するのに有効な温度が 200℃未満である、請求項 1 記載の方法。

【請求項 9】

前記パッケージが、パッケージの内部に配設された光電子デバイスをさらに備えており、光電子デバイスが、パッケージの壁面を画成する内側を含む外面を有する、請求項 13 記載の方法。

【請求項 10】

前記ゲッタ前駆体がアジ化バリウムである、請求項 1 記載の方法。